

ポスター | 1-16 肺循環・肺高血圧・呼吸器疾患

ポスター

肺高血圧 病態

座長:塚野 真也(新潟県立新発田病院)

Fri. Jul 17, 2015 2:20 PM - 2:50 PM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

II-P-127~II-P-131

所属正式名称:塚野真也(新潟県立新発田病院 小児科)

[II-P-128]平均肺動脈圧が35mmHg未満の術後肺静脈狭窄の予後：必ずしも予後不良でないか

○大橋 啓之¹, 三谷 義英¹, 大槻 祥一郎¹, 淀谷 典子¹, 澤田 博文¹, 早川 豪俊¹, 小沼 武司², 新保 秀人², 駒田 義弘¹
 (1.三重大学大学院医学系研究科 小児科学分野, 2.三重大学大学院医学系研究科 胸部心臓血管外科学)

Keywords:肺静脈狭窄, 肺高血圧, 総肺静脈還流異常症

【背景】術後肺静脈狭窄 (PVS) は, 進行性で早期介入が必要とされる一方で, 緩徐な経過をたどるタイプも散見される。【目的】平均肺動脈圧(mPAp)が35mmHg未満の術後 PVS症例の予後を検討した。【方法】診療録(2009-2014)に認めた PVSの経過を後方視的に検討した。症例選択基準は総肺静脈還流異常(TAPVR)/部分肺静脈還流異常(PAPVR)術後に, エコーもしくは血管造影により PVS (エコー; non-phasic flow, 狭窄部フロー>2m/s, カテテル; 径の50%以上狭窄, 狭窄部圧差4mmHg以上, 完全閉塞を含む)を診断され, mPAp<35mmHgの症例とした。除外基準は機能的単心室症例, atrial isomerism症例とした。【結果】対象は5例, 年齢は中央値6.5歳 (IQR 5.5-11.2)。診断は TAPVR3例, シミター症候群 (SS) 1例, rt. PAPVR1例 (TGA VSD PA PDA合併)。初回手術時年齢は, 中央値生後55日 (IQR 26-152)。PVS出現時期は, 中央値術後117日 (IQR 75-137日) で, 肺高血圧 (PH) を認めた症例は3例 (TAPVR2例, SS1例) であった。TAPVR1例(術後2.7か月)と SS1例 (術後6.9か月) に再手術をおこなったが, 再々狭窄となった。しかし, いずれも肺内側副血管が発達しており, それ以上の手術介入は必要とせず, 最終的に mPAp<35mmHgであった。他の TAPVR1例は, 術後4か月に PVSとなったが, 術後1年時点で, mPApは29mmHgで, その後進行を認めないため再手術は適応しなかった。PHを認めなかった2例は, PHの出現を認めずに経過している。遠隔期合併症として喀血を TAPVRの1例に認め, コイル塞栓術を必要とした。【結語】術後4-6か月以上経過し平均肺動脈圧<35mmHgの PVSを伴う TAPVR/PAPVRにおいて, 肺静脈側副血行路の発達を伴い, 必ずしも予後不良ではない。